

H27年度（2015年度）活動実績

はじめに H27年度は4月当初に従来の豊島ネット棚田くらの活動を引き継ぐため新たな組織「豊島棚田くらぶ」を結成し、活動を継続、合わせて“棚田くらぶ規約”も制定し活動主体を明確にした。豊島での年間活動回数は過去最多の21回、延参加者数は211名の多数の方々の協力を得ることができた。年間の活動、出来事の概要は以下のとおりである。

1. **新組織への移行** H28年度末に解散となる豊島ネットを見据え、棚田くらの活動を継続すべしという多くの声をうけ、年度当初（4月）に新たに「豊島 棚田くらぶ」（代表 真鍋宣子）を結成、「棚田くらぶ規約」も策定のうえ活動を継続した。また、8月にはイオン環境財団へH28年度分活動助成金申請書を提出、H28.1月に「豊島棚田くらぶ」は助成先団体の決定を得た。

2. **棚田の保全・景観** 最上段畑、三角地畑、上段棚田および田んぼは年度を通しほぼ景観を確保できた。しかし中・下段棚田は夏場の耕耘も遅れたことや水路側半分は石垣からの湧水のため沼地状態となり手入れができなかったこともあり雑草が茂りやや荒れた状態の景観となった。また、田んぼの山側の水路沿いの畔がイノシシに踏み荒らされており、H28年度の田植えまでには畔の補強・復元整理が必要である。

3. 主な作物栽培

(1) **稲作** 例年と同様に6月田植え、草取り3回実施。手製の熊手と手押しの除草機をフル稼働し、3回とも田んぼ全面の草取りができた（昨年までは雑草を手で引き抜くこととしていたため、時間内に取り切れず、全面積の三分の一ほど残っていた）。このためか、また天候にも恵まれたか有機無農薬で栽培した玄米の収穫量は例年にない270kgと豊作であった。そのうち176kgを年間の作業参加者で分かち合い、残りは販売し運営費用とした。

(2) **蕎麦** 作付畑3枚のうち2枚は完全にイノシシに食べられ、最小の畑1枚のみ収穫でき、玄蕎麦6kgほどの少ない収穫となったが、12月

の収穫祭には手打ち蕎麦にして楽しむことができた。

(3) **小麦** 冬季の緑化を目指して小麦栽培に取り組むこととし、香川県のブランド品種小麦“さぬきの夢2009”を、11月に種まきをした。H28.3月末現在20～30cmほどに生育中である。

(4) **レンコン** 本場鳴門のレンコン農家から種レンコンを提供いただきH28.3月上段棚田の湿地帯に植え付けをした。またレンコンの種も100粒ほど蒔いた。上手く育てば棚田湿地帯の緑化策の拡大が期待できる。なお、レンコン畑（池）の水管理は田んぼと同様に地元協力者に委ねるところである。

(5) ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、玉ねぎ、ニンニクなど栽培。

4. **豊島の活動回数、参加者数** 今年度から始めた小麦、レンコン栽培のための作業機会の増加などにより活動回数21回、延参加者数211名と過去最多となった。

5. その他特記事項

(1) **イノシシ被害 電気柵設置** 豊島各地でもイノシシ被害が多発しているようであり、当くらのサトイモ、サツマイモ、蕎麦など被害にあい、電気柵設置で対応することにした。

(2) **ホームページの公開** H28.2月にホームページを作成し、公開した。従来の活動状況報告の掲示板とのリンク、次回作業の案内などお知らせ事項、年度計画、規約など掲載し団体として常時ベースとなる情報提供ができる体制となった。

(3) **収穫祭他** 12月に収穫祭を開催した。収穫した蕎麦で手打ちの盛り蕎麦を楽しみ、また地元の方からイノシシ肉と、会員からの多量の牛タンを差し入れもあり、蕎麦、しし鍋、牛タン焼きを存分に堪能した。8月の納涼会、1月の新年会などを開催し意見交換の場とした。

